

2章

「ニワミチよっかいち」 の景観づくりの考え方

2-1 中央通りのデザインコンセプト

基本計画に掲載されている「中央通りのデザインコンセプト」を踏襲

「ニワミチよっかいち」

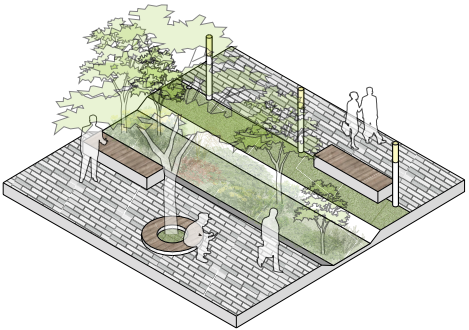
ー山を望み港へ結ぶ歩きたくなる中央通りー

中央通りは、鈴鹿山脈を望み、港へつながっていく四日市市の中心市街地を貫く緑の都市軸となる“ミチ”です。
今回の再編により、交通を捌き処理していくという従来の道路機能だけではなく、新たな時代にふさわしい道路整備を目指していきます。

中央通りでは、歴史の中で育まれてきたクスノキ並木の豊かな緑を活かし、自然との関わりの中で質の高い暮らしを実現する「グリーンインフラ」となる“ニワ”に、近年道路空間再編の主流になりつつある、歩行者を中心として交通だけでなく滞留や活動の場といった機能も取り入れた「ウォーカブル」な“ミチ”を掛け合わせた、“ニワミチ”をコンセプトとしました。
“ミチ”が“ニワミチ”になることで、鈴鹿山脈や港へのつながりといった中央通りが持っているポテンシャルを最大限に発揮できる空間づくりを実現していきます。

「ニワミチよっかいち」という言葉には、緑とひとの豊かな関係をともに育んでいながら、自由に立ち寄り、気兼ねなく時を過ごせる“ニワ”の役割に加え、歩行者中心の考え方に基づきつつ、市民が自分の空間として使い、様々な出来事に会い、歩きたくなるような“ミチ”の役割を担っていきたいという意味が込められています。
安全安心に歩くことができるだけでなく、緑豊かなオープンスペースで過ごしたり、人々や行われる様々な活動に出会ったり、自然とその場所に集い歩きたくなるような空間づくりを目指します。

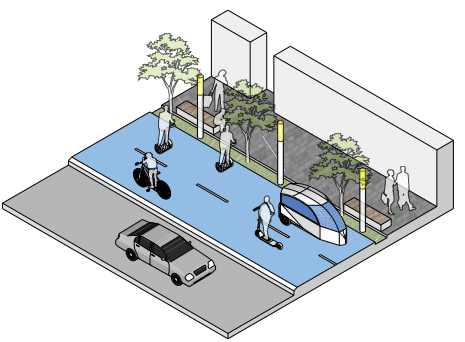
“ニワミチ”の実現は、都市の発展の過程で公害を経験してきた四日市市が、環境先進都市として今まで以上に環境に配慮し、人々に楽しまれ、選ばれ、住みたくなるまちになる「リーディングプロジェクト」となるものです。



“ニワ”

緑・滞在・交流
(グリーンインフラ)

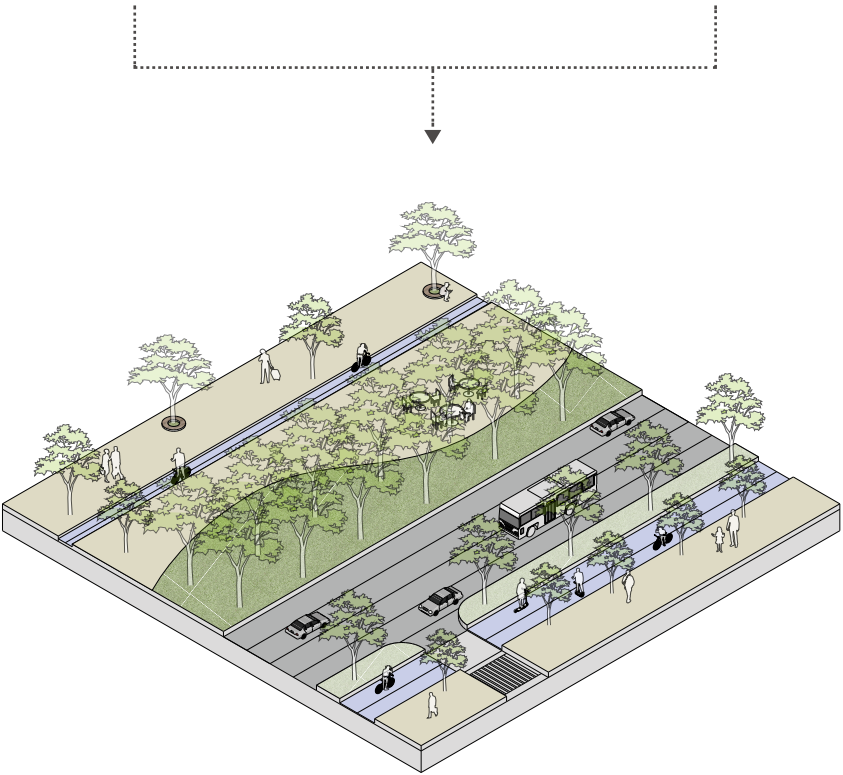
緑とひとの豊かな関係の中で
気兼ねなく時を過ごせる



“ミチ”

交通・移動+滞留+活動の場
(ウォーカブル)

居心地がよく歩きたくなる
(“WEDO”)



“ニワミチ”

交通・移動+滞留+活動の場+緑・滞在・交流

多様な活動が展開され、居心地がよく歩きたくなる歩行者中心のミチ
緑とひとの豊かな関係をともに育み、気兼ねなく時を過ごせるニワ
(ウォーカブル×グリーンインフラ)

2-2 景観形成における5つの戦略

共通のデザイン方針等基本計画に記載されている事項に基づき、
形状・色彩決定、
素材・仕上げ選定の指針となる
5つの戦略を下記に示す



景観形成における5つの戦略

戦略①

統一感・連続性による都市軸の演出



戦略②

回遊を促す心地よいアイレベルでの変化



戦略③

四日市の顔にふさわしい高質な設えと四日市らしさの表現



戦略④

豊かで多様な緑の設えによる居心地の良い空間づくり



戦略⑤

官民一体の賑わいを演出する使いやすい空間づくり



利活用における3つの戦略

戦略①

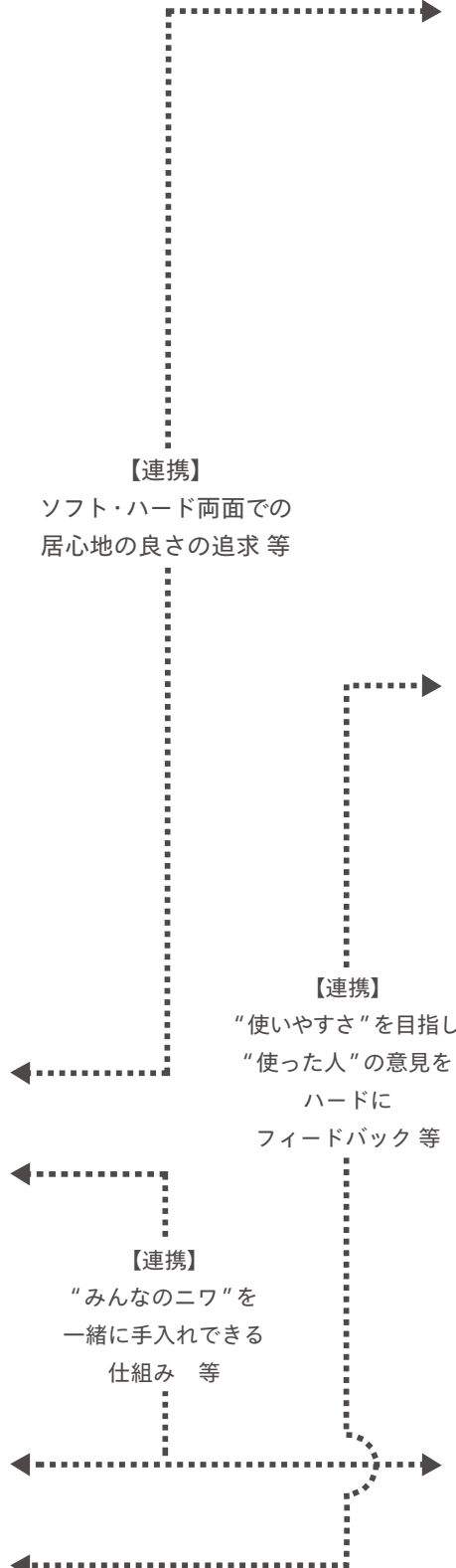
「みんなが気持ちよく
過ごすことができる」
居心地の良さの実現

戦略②

「使い続けたい、
何度も来たい」
魅力的なコンテンツ・
効果的な情報発信

戦略③

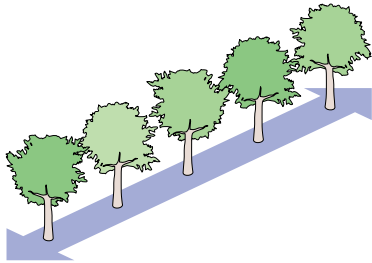
「みんなでつくり、
育んでいく」
インクルーシブな
賑わいづくり



戦略1：アーバンスケール
統一感・連続性による都市軸の演出

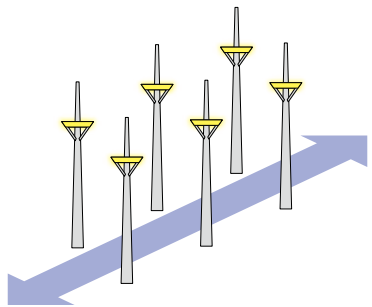
① 緑の連続性

既存のクスノキ並木を活かすことで、全線にわたり緑量を確保し、緑の連続性を演出



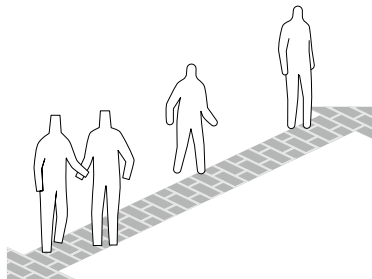
② 光の連続性

街路の骨格の光となる車道照明は全線統一とし、光の連続性を演出



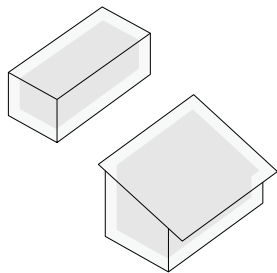
③ 「地」の舗装の連続性

南側歩道部においては、全線にわたり同一素材の舗装材を使用し、空間の「地」としての連続性を演出



④ ベースカラーが統一された
シンプルな形状の主要構造物

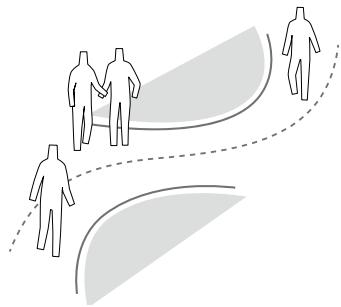
デッキおよび建築物といった主要構造物は、シンプルな形状とし、意味のない複雑な形状の採用および装飾は行わない
また、ベースカラーは可能な限り統一



戦略2：ミドルスケール
回遊を促す心地よいアイレベルでの変化

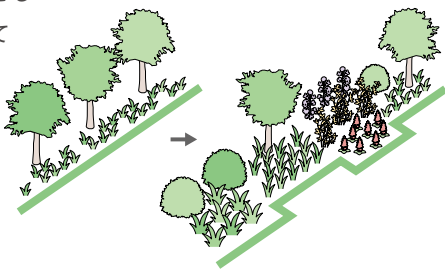
① 「図」の舗装のゆるやかな変化

「図」となる舗装にゆるやかな変化をつける



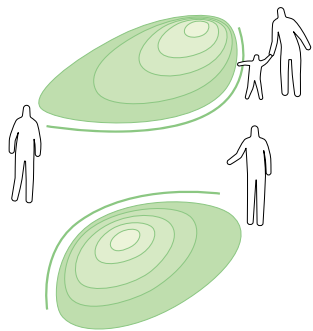
② きめ細やかな “ニワ” の変化

「直線状の」植栽帯ではなく、雁行させるなど場所に応じて輪郭に変化をつけた多様な配植の緑地 “ニワ” で変化を演出



③ 緑地での緩やかな起伏形状

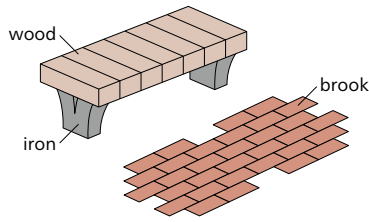
まとまった緑地部分には起伏をつけ、立面的な変化を演出する



戦略3：ミドルスケール
四日市の顔にふさわしい
高質な設えと四日市らしさの表現

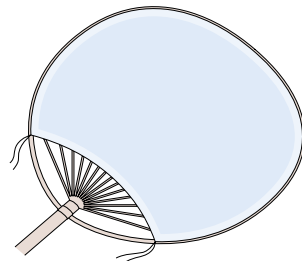
① 素材が持つ質感（色彩・表情）に近い仕上げの選定

鉄・木材・石材・コンクリートなど素材が持つ質感や一つの材の小さな表情の違いを活かした仕上げを選定する



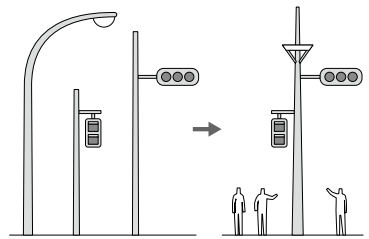
② 四日市らしさを表現する形態や素材の選定

直接的な引用とならないように留意しつつ、四日市の工芸品や歴史からヒントを得た形態・素材を選定する



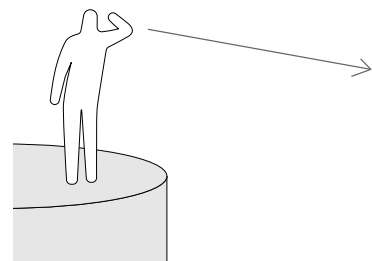
③ 地上工作物は必要最小限とし、
人の活動や緑が映える高質な空間とする

機能上必要な地上工作物は効果的に必要最小限の配置とし、新たなモニュメントは可能な限り設置しないことで、人の活動や緑が主景となる空間とする



④ 重要な視点場からの見え方に配慮した空間づくり

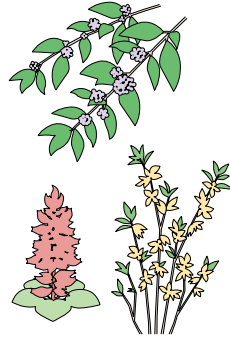
円形デッキへの地上からの視点場、円形デッキ上から中央通りを東に望む視点場、JR四日市駅側から中央通りを西に望む視点場については顔づくりに重要な視点場のため、特に見え方に配慮する



戦略4：ヒューマンスケール
豊かで多様な緑の設えによる
居心地の良い空間づくり

① 多様な樹種・地被の採用

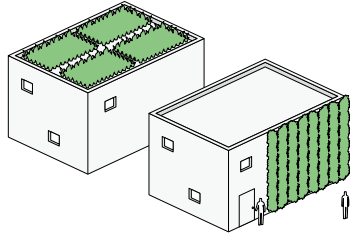
周辺からの見え方や季節感に配慮した多様な樹種の中高木を配植する



歩行者動線に近い植栽帯では、多様な葉の色や形、花の色の地被植栽を配植する

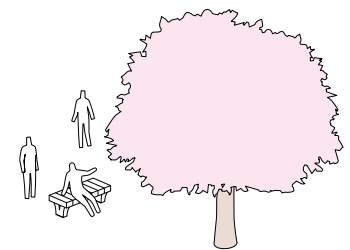
② 多様な建物緑化手法の採用

屋上緑化、壁面緑化など建築物においても多様な緑化手法を採用する



③ 人の居場所の近くは季節感を感じる植栽計画とし、
滞留行動を促進する

ベンチや座ることができる場所に隣接する “ニワ” においては、季節感を感じる花や中低木を配置する

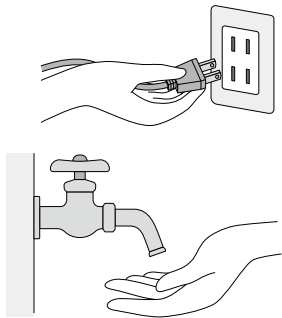


戦略5：ヒューマンスケール

官民一体の賑わいを演出する使いやすい空間づくり

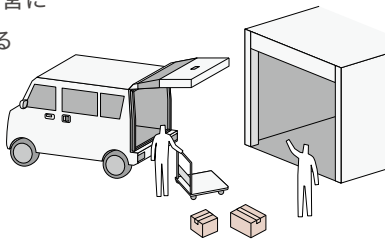
① 利活用インフラの整備

歩道上の利活用スペース、広場・公園には利活用のための電源等のインフラを整備する



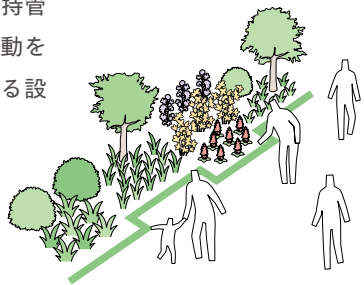
② 運営に配慮した施設配置

荷捌きスペースの確保や荷捌き動線の確保など運営に配慮した施設配置とする



③ 市民活動を受け入れることができる“ニワ”

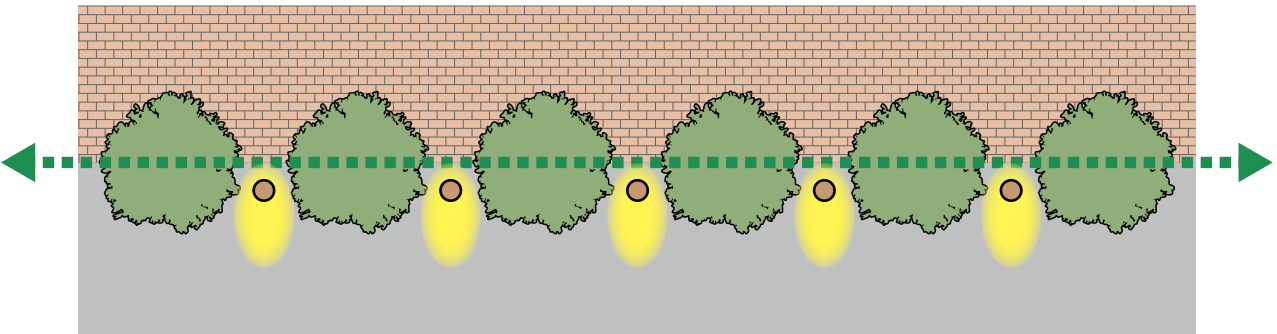
“ニワ”においては、維持管理・手入れなど市民活動を受け入れることができる設えとする



2-3 街路骨格のデザイン

中央通りの連続性の形成

- 中央通りに沿った緑と光の連続性を確保し、街路骨格としての軸性を形成する
- 緑の連続性は、既存の樹木を含めた高木の列植によって形成する（「緑のデザイン」で方針を掲載）
- 光の連続性は、車道照明・歩道照明等の列柱によって形成する（「光のデザイン」で方針を掲載）

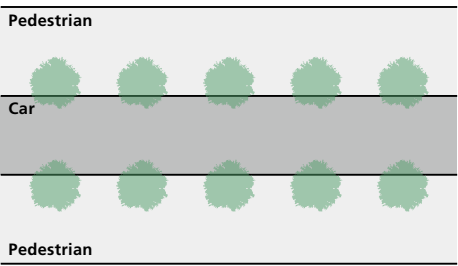


中央通りの一体性の形成

- 道路幅員が約70mの中央通りは、クスノキ並木のある中央分離帯や車道空間によって、南北の歩行者空間が分断され、画一的な断面構成となっている
- 中央通り再編にあたって、より歩きやすく使いやすい場所としていくために、大きくゆるやかな曲線で南北の分断を解消し、道路空間全体に変化と流れをつくる設えとし、中央通り全体を一体的な“大きなニワ”として設えていく
- 加えて、異なる特徴をもつ3つのストライプを組み合わせることで空間に埋め込むことで、多様な緑と人の居場所となる“小さなニワ”をつくる

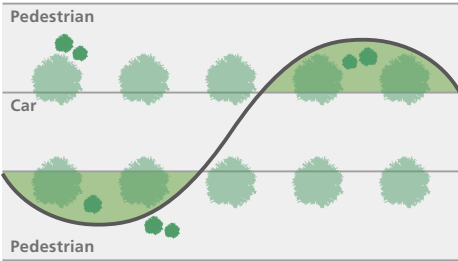
現状

クスノキ並木や車道空間による分断によって、南北の歩行者空間のつながりが薄く、画一的な断面構成の道路となっている



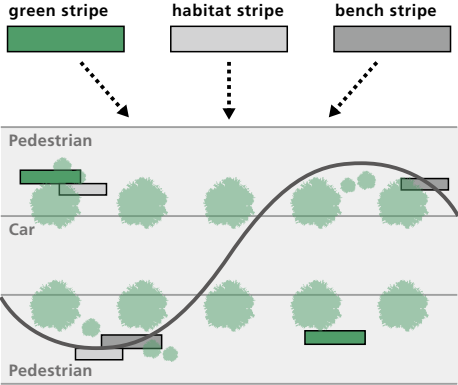
大きなニワをつくる

ゆるやかな曲線で南北の歩行者空間をつなぎ、道路空間全体に変化と流れをつくり、一体的な“大きなニワ”を設える



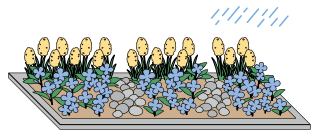
大きなニワの中に
小さなニワをつくる

3つのストライプを組み合わせ、埋め込んでいくことで、多様な緑と人の居場所となる“小さなニワ”をつくる

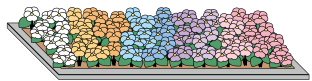


“小さなニワ”を形成する3つのストライプ

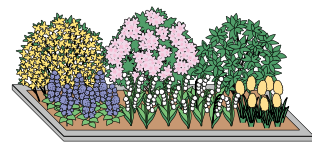
green stripe



都市型災害の緩和に寄与するレインガーデンの帯

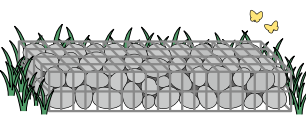


街路空間に彩りを与える花々の帯



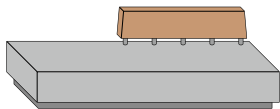
宿根草・多年草を中心に背の高い植物の帯

habitat stripe

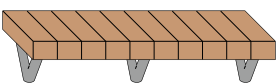


生物の住処となる生態系の帯

bench stripe



コンクリートを主材とした安定感のあるベンチの帯



木材と鉄鋼を主材とした軽やかなベンチの帯

2-4 緑のデザイン

ここでは、全線で大きな緑の繋がりを形成する高木樹木の方針について記載する

高木植栽の方針（全線共通）

① 既存列植は可能な限り残置する

- クスノキ列植をはじめ、既存列植は可能な限り残置する

② 新植樹木については季節感を演出する四日市らしい樹木を選定

- 街区端部やベンチ付近等の見られる頻度が高い場所には、シンボルツリーとなる季節感を演出する樹木を配置する
- 四日市周辺の山地から平地にかけて自生していた樹種を選定する

高木植栽リスト（一例）



常緑広葉 ウバメガシ



落葉広葉 コハウチワカエデ



常緑広葉 サカキ



落葉広葉 ヒメシャラ



落葉広葉 サルスベリ



落葉広葉 イロハモミジ



落葉広葉 コブシ



常緑広葉 スダジイ



常緑広葉 ヤマモモ



落葉広葉 ヤマザクラ



落葉広葉 ハナミズキ



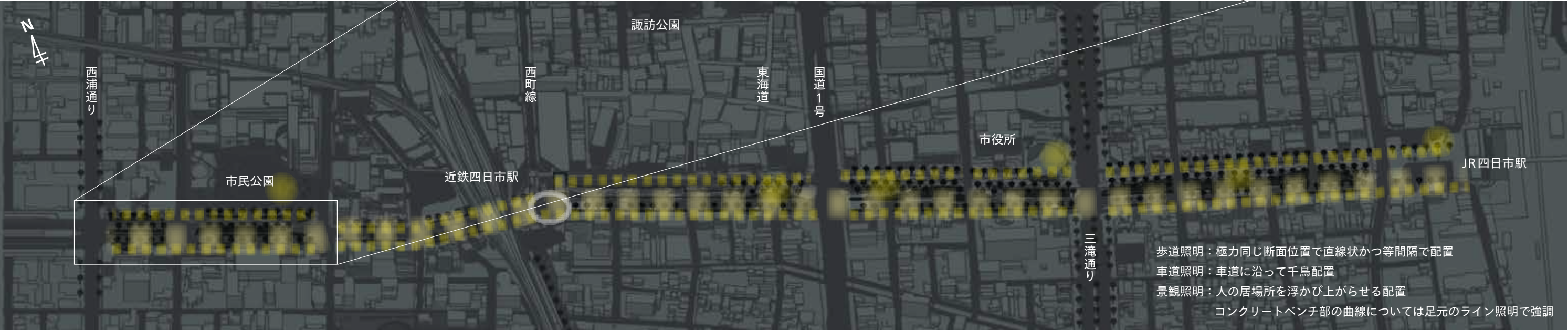
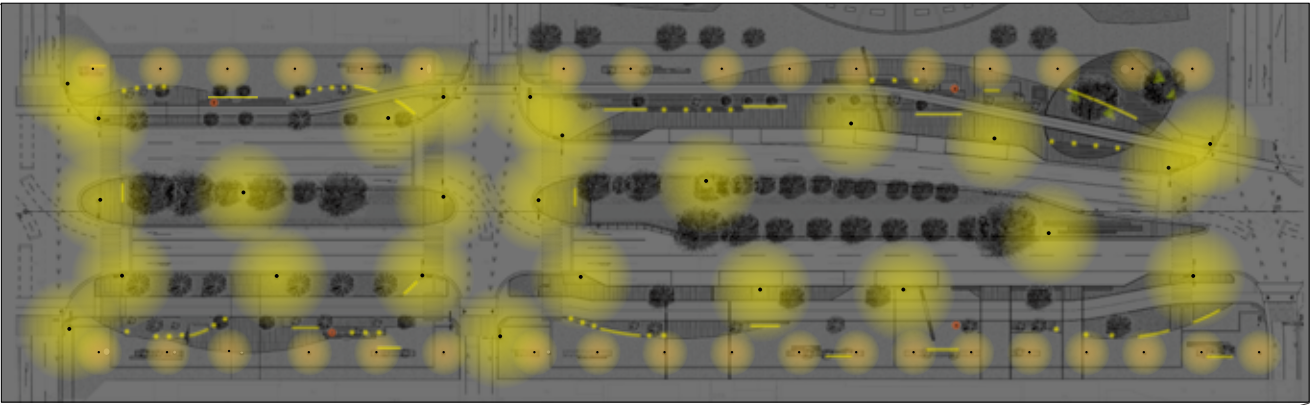
常緑広葉 ヤマボウシ

2-5 光のデザイン

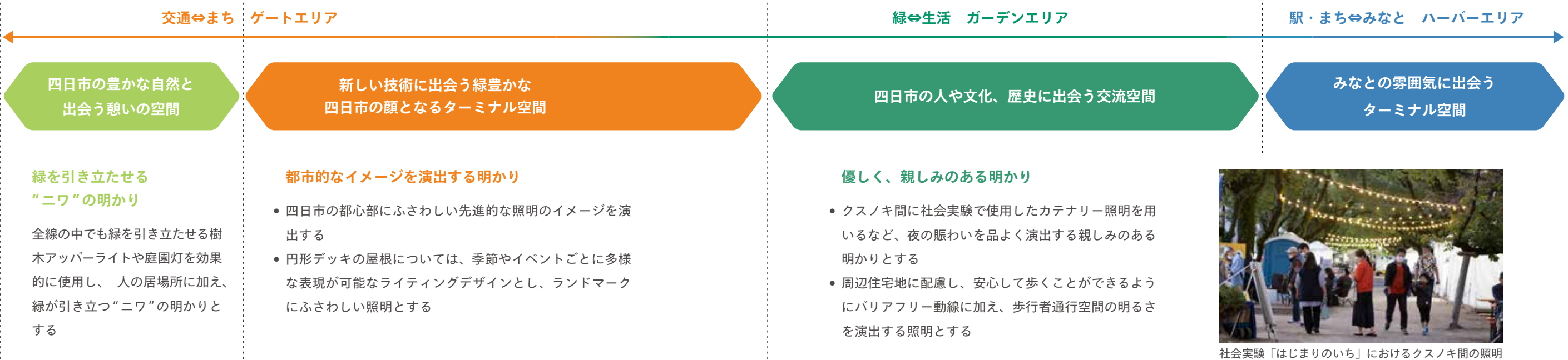
光のデザインの方針（全線・エリアごと）

全線共通
歩行者空間は電球色を基本とし、モダンな和の光を表現

- 歩道照明・景観照明は、より温かみを表現するため、2700K程度の電球色とし、“ニワ”を照らす
モダンな和の明かりとする
- 車道照明は、周辺車道との色温度の違いを緩やかにするため、3000K程度とする



歩道照明：極力同じ断面位置で直線状かつ等間隔で配置
車道照明：車道に沿って千鳥配置
景観照明：人の居場所を浮かび上がらせる配置
コンクリートベンチ部の曲線については足元のライン照明で強調



光のデザインの方針（全線共通）

① 夜も安全・安心に歩くことができる

- バリアフリー動線上は必要照度（明るさ、平均10lx以上）・均斉度（光のムラ、0.2以上）を確保する
- 乗り入れ部や自転車動線の屈曲部等夜間の視認性向上に寄与する補助的な景観照明を導入

② 車道照明で中央通りの連続性を表現する

- 車道照明を全線統一とすることで、中央通りの軸性・連続性を演出する
- 港側へは青色LED・山側へは黄緑～緑色のLED等を用いて視覚的に海と山のつながりを柔らかに演出する

車道照明による軸性の演出



車道照明の灯具イメージ

③ 環境先進都市を表現する明るすぎない優しい明かり

- 歩道部内の使われ方に対応した明るすぎない照明とする
ex. 人が立ち入れない緑地については照度確保を行わない
- 目に優しい光として電球色（3000K以下）の色温度の照明を用いる

④ 人の居場所が図として浮かび上がる明かり

- ベンチ等人的居場所については、足元を照らす等、図として浮かびあがる明かりとする

⑤ 屋景とは異なった印象を与える照明計画

- 太陽光とは異なる上方配光の照明を効果的に用いることで、魅力的な夜間景観を演出する
- 3色以上のイルミネーションは基本的には行わない
※ただし、円形デッキやクスノキ並木などの四日市の顔となるランドマークについては、この限りではない

照明の色温度について



電球色として照明は3000K以下とする

歩道照明・景観照明：2700K 程度

車道照明：3000K 程度

照明配置の考え方



ベンチ部は足元を照らすフット
ライトとし、人の居場所を浮かび
上がらせる

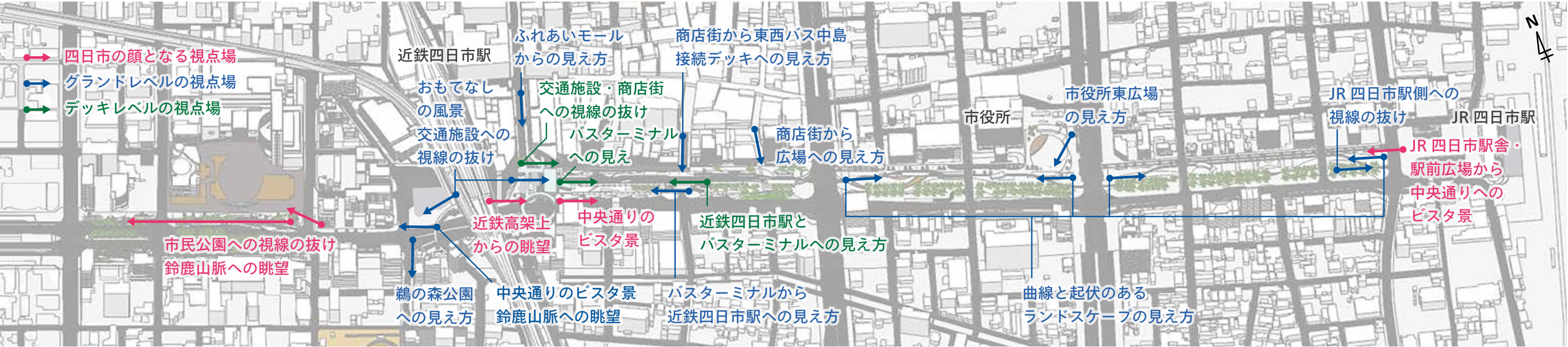
局所的に暗くなる緑地の端部や
季節感を演出する地被類につい
ては庭園灯を設置

ポイントとなる樹木（街区端部の
高木、季節感を演出する樹木等）に
ついてはアップライトで演出

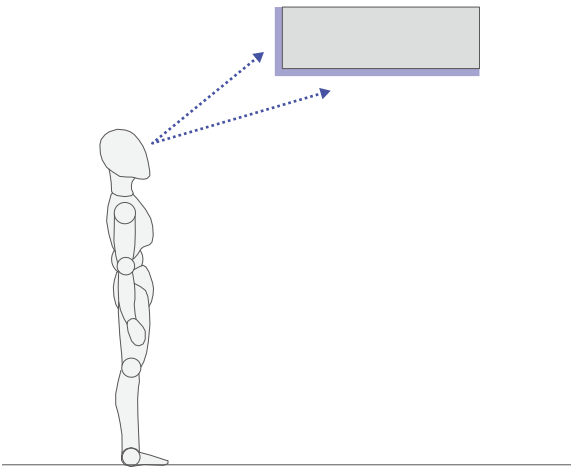
2-6 デザイン検討上配慮すべき視点

- 基本計画に示されている「デザイン検討上配慮すべき重要な視点場」について、①見上げ・②見下ろし・③見通し・④見渡しの4つの視点に配慮したデザインとする
- デザイン検討上配慮すべき重要な視点場の内、「四日市の顔となる視点場」については、次頁に示す点に俯瞰の観点に配慮したデザインとする

デザイン検討上配慮すべき重要な視点場（基本計画 p.47に一部加筆）

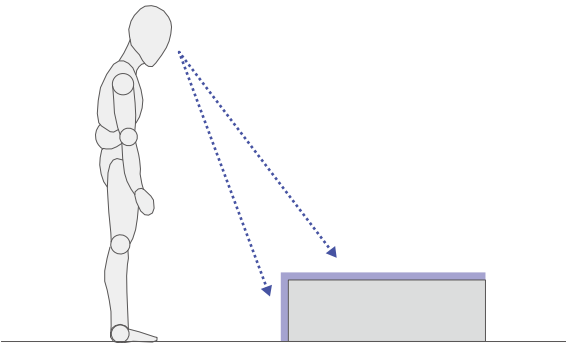


配慮すべきポイント



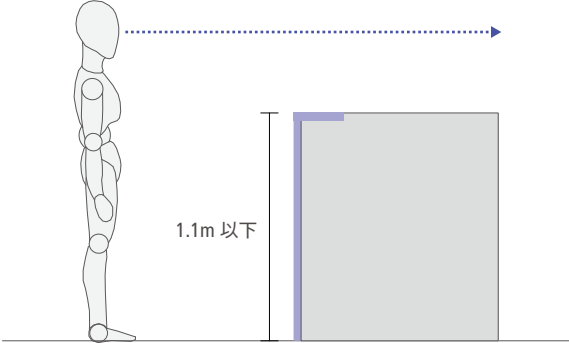
①「見上げ」

屋根やシェルター、吊り看板等の人の目線より上に設置される構造物は、下面・側面（小口）の仕上げに配慮し、ボルト等の突起物は最小限とする



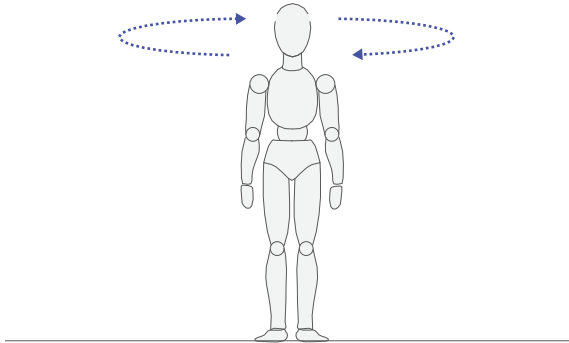
②「見下ろし」

ベンチやポラード、建物上層階から見下ろした時の屋根等の人の目線より下に設置される構造物は、上面・側面（小口）の仕上げに配慮する



③「見通し」

景観の連続性やつながりを確保するため、高さや容積のある構造物は、極力高さを1.1m以下に抑え、目隠し壁等の構造物は、側面の仕上げに配慮する



④「見渡し」

視点場からの見渡しを阻害する構造物（袖看板や樹木・照明等）の配置に配慮し、やむを得ず設置される場合は、構造物の仕上げや色彩に配慮する

「デザイン検討上配慮すべき重要な視点場」の内、四日市の顔となる象徴的な3つの視
点場からの俯瞰の見え方については、具体的な配慮すべきポイントを以下に記載する

市民公園への視線の抜け・鈴鹿山脈への眺望



配慮すべきポイント

① 鈴鹿山脈への眺望

鈴鹿山脈への歩道部のアイレベルからの眺望を重視し、軸の形成として設
える緑（高木）と光（照明）を除き、眺望を阻害する構造物の設置を極力
避け、見通しを確保する

② 市民公園への視線の抜け

市民公園への視線の抜けが確保できるように、歩行者空間の連続性を阻害
するような構造物の設置は行わず、可能な限り見通しを確保する

近鉄高架上からの眺望・中央通りのビスタ景



配慮すべきポイント

① 円形デッキ屋根を図として強調

四日市のシンボルとなる景観として、円環状の円形デッキ屋根をシン
ボリックに強調し、その他の構造物や建物屋上については、ガラ
ス屋根等のシンプルな設えとする

② 緑の連続性

近鉄四日市駅ホームや近鉄車両などの近鉄高架上や円形デッキ、バ
スタ施設等、みなと方面に向かって続く中央通りへの眺望を重視し、
緑の連続性を可能な限り確保し、難しい場合は、屋上緑化等による
緑の連続性と見通しの確保が望ましい

③ 見下ろしへの配慮

近鉄高架上や近鉄四日市駅周辺の高層ビルから中央通りへの見下ろ
しに配慮し、屋根上面や建物施設の屋上部分の設えは設備機器の露
出等を可能な限り避け、色彩についても目立たないように配慮する

JR四日市駅舎・駅前広場から中央通りへのビスタ景



配慮すべきポイント

① 緑の連続性の確保

JR四日市駅舎や駅前広場等、鈴鹿山脈方面に向かって続く中央通りへの眺望を重視し、緑の連続性を可能な限り確保し、難しい場合は、屋上緑化等による緑の連続性と見通しの確保が望ましい

② 沿道の街並みの連続性

中央通り沿道については、壁面位置の連続性等、沿道の街並みの連続性に留意する

③ 見下ろしへの配慮

JR四日市駅や駅周辺の高層ビルから中央通りへの見下ろしに配慮し、屋根上面や建物施設の屋上部分の設えは設備機器の露出等を可能な限り避け、色彩についても目立たないように配慮する

2-7 景観形成戦略の更新

- 景観形成戦略は、運用を行いながら開発動向・情勢に合わせて、適宜新たなルールの追加や緩和等の更新を行っていく
- 四日市市は、景観形成戦略策定・公開（PLAN）の後、主に中央通り公園や沿道開発事業者との調整など実際の運用（DO）を通じて、目標達成の度合いや課題の把握を行い、評価（CHECK）を行った後、関係者との連携を図りつつ、適宜、戦略内容の修正や更新（ACTION）を行っていく
- 景観形成戦略と利活用戦略は、相互に連携した戦略とすることから、内容の更新にあたっては、必要に応じて連動した更新を行う

景観形成戦略の更新イメージ

① 計画（PLAN）段階での運用方針

景観形成戦略の策定・公開
四日市市による策定・公開（関係者：四日市市）

② 実行（DO）段階での運用方針

景観形成戦略の運用（開発事業者等との調整）
中央通り公園でのPark-PFIや沿道開発等における戦略の運用（関係者：四日市市・民間事業者等）



④ 改善（ACTION）段階での運用方針

景観形成戦略の修正・更新
評価に基づき、デザインWG等を通じて適宜内容を修正・更新（関係者：四日市市・デザインWG等）

③ 評価（CHECK）段階での運用方針

景観形成戦略の評価
中央通り公園整備後に管理主体や運用者の意見を踏まえ、戦略内容について評価（関係者：四日市市・民間事業者維持管理を担う市民等）